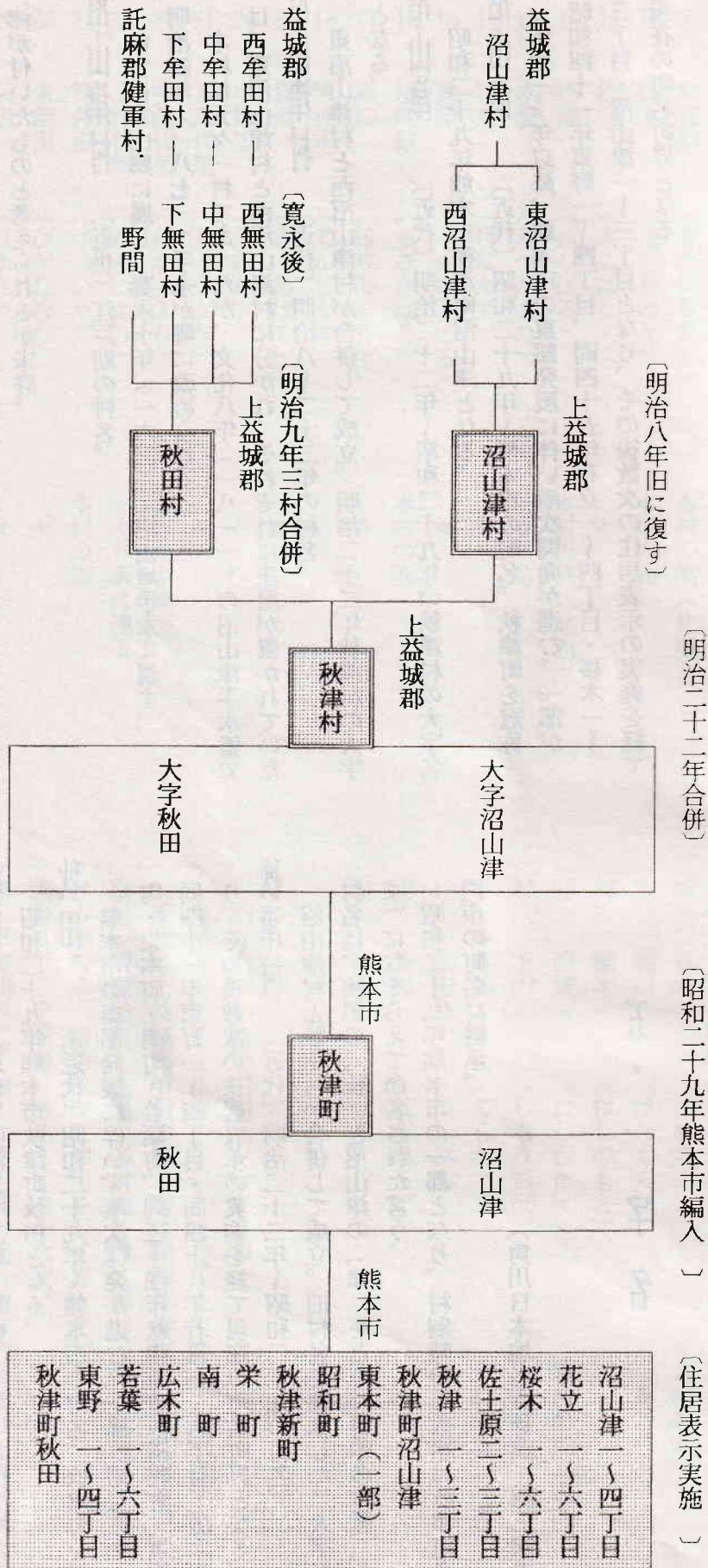


この校名は、万葉歌人「柿本人麻呂」の
 「東の野にかぎろいの 立つ見えて かへり見すれば月傾きぬ」

五地 名

五・一村名・町名の移り変わり



沼山津

地名の沼山は湿地の林または野林の意と思われ、これに舟着場を指す津が付いたものと考えられるが未詳。

沼山津村

〔近世〕江戸期の村名。

中古は木山郷に属し、寛永十年（一六三三）沼山津手永に属す。

明治四年（一八七二）手永が郷に改められる。

本村は元々一村であったが、文化八年（一八一）の沼山津手永鑑では、東沼山津村と西沼山津村に分かれ、それぞれに庄屋が置かれていた

沼山津村

〔近代〕明治八〜二十二年の村名。

東沼山津村と西沼山津村が合併して成立。明治二十二年秋津村の大字となる。

沼山津

〔近代〕明治二十二年〜昭和二十九年の秋津村の大字名

昭和二十九年熊本市秋津町沼山津となる。

沼山津

〔近代〕昭和二十九年〜熊本市の町名。秋津町を冠称

昭和三十年以降、熊本市の東部発展に伴い漸次開発が進む。一部が昭和四十一年東野一〜四丁目、同四十五年花立一〜四丁目・桜木一〜三丁目・沼山津一〜三丁目となり、その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋田村

〔近代〕明治十〜二十二年の村名。

上益城郡のうち。中無田村・西無田村・下無田村と託麻郡健軍村のうち野間が合併して成立。同二二年秋津村の大字となる。

中古元西牟田村・中牟田村は木山郷、元下牟田村は甘木荘に属し、

寛永十年（一六三三）西牟田村・中牟田村は沼山津手永に、下牟田村は鯨手永に属す。

明治四年（一八七二）手永が郷に改められる。同八年（一八七五）下牟田村を沼山津郷に編入す。三村とも寛永後「牟田」の字を「無田」に用いる。

秋田

〔近代〕明治二十二年〜昭和二十九年の秋津村の大字名

昭和二十九年熊本市秋津町秋田となる。

秋田

〔近代〕昭和二十九年〜熊本市の町名。秋津町を冠称

熊本市の東部発展に伴い、漸次開発が進む。一部が昭和三十一年栄町・東本町・南町・若葉町、同三十四年秋津新町・昭和町、東原町・

同四十一年東野一〜四丁目・同四十八年若葉一〜六丁目・広木町となり、その後数次の住居表示の実施を経て現在の町名町界となる。

秋津津村

〔近代〕明治二十二年〜昭和二十九の村名。

沼山津村と秋田村が合併して成立。旧村名を継承した二大字を編成。村名は、秋田の「秋」と沼山津の「津」をとり、日本の古名「あきつしま」になぞらえて命名された言う。

昭和二十九年熊本市の一部となり、村制時の二大字は秋津町を冠称。同市の町名に継承。

〔角川日本地名大辞典 四三熊本県〕

五・一 字 名

(1) 沼山津の字名

東は上益城郡廣崎村（現益城町広崎）、西は同郡秋田村、南は同郡島田村（現益城町島田）、北は託麻郡健軍村（たけみやむら）各耕地を以て界とす。

東西十七丁四十間、南北三十一丁。

注・字中津代里千七百七十一番堂床前・西小路地蔵の角（現在の沼山津三丁目一三番七号）の沼山津村元標基準

(字番号) (字名) (ふりかな)

(位置)

(字番号) (字名) (ふりかな)

(位置)

田村を沼山津郷に編入す。三村とも寛永後「牟田」の字を「無田」に用いる。

(字番号)	(字名)	(ふりかな)	(位置)
1	筒井久保	(つついくぼ)	本村の良(北東)
2	竹内	(たけうち)	本村の北
3	古閑前	(こがのまえ)	々
4	杉本	(すぎのもと)	々
5	境峠	(さかひたうげ)	々
6	古閑久保	(こがのくぼ)	々
7	上古閑久保	(かみこがのくぼ)	々
8	佐土原	(さどはら)	々
9	北花立	(きたはなたて)	本村の乾(北西)
10	桜木	(さくらのき)	本村の北
11	横畠	(よこばた)	々
12	西原	(にしはら)	本村の乾(北西)
13	水溜	(みづたまり)	々
14	花立	(はなたて)	々
15	鶯原	(うぐいすばる)	々
16	須崎原	(すぎさばる)	本村の西
17	堀口	(ほりのくち)	々
18	天神木	(てんじんぎ)	々
19	貝原	(きやあばる)	々
20	小無田	(こむた)	々
21	下津代里	(しもつより)	々
22	中津代里	(なかつより)	本村の中央
23	上津代里	(かみつより)	々より東に連る
24	筒井田	(つついだ)	本村の東
25	東無田	(ひがしむた)	々
26	長田	(ながた)	々
27	上内	(かみうち)	々

(字番号)	(字名)	(ふりかな)	(位置)
28	樋口	(ひのくち)	本村の巽(南東)
29	大城町	(おほしろまち)	々
30	名守	(なもり)	々
31	兵糧田	(ひようろうた)	々
32	戸井手	(といで)	々
33	奥分	(おくぶん)	々
34	堀切	(ほりきり)	本村の南
35	保手本	(ほてのもと)	々
36	日焼	(ひやけ)	本村の南
37	橋口	(はしぐち)	々
38	橋本	(はしのもと)	々
39	西無田	(にしむた)	本村の坤(南西)
40	下内	(しもうち)	々
41	寺田	(てらだ)	本村の坤(南西)
42	圖志分	(づしぶん)	本村の南
43	萩原	(はぎはら)	々
44	計路	(けろ)	本村の坤(南西)

(2) 秋田の字々名

東北は上益城郡沼山津村、南は同郡井寺村(現嘉島町井寺)・六嘉村(現嘉島町下六嘉)各耕地を以て界し、西は託麻郡健軍村(たけみやむら)耕地及び江津川を以て界とす。
東西八丁二十四間、南北八丁四十六間。

注・字野間原二千四十六番宅地の前(現在の秋津一丁目二番一〇号付近)の秋田村元標基準

(字番号)	(字名)	(位置)
1	一口	本村の南 (ふりかな)
2	碩下	々 (せきした)
3	中道下	本村の坤 (南西) (なかみちした)
4	上道下	本村の南 (かみみちした)
5	間島	々 (ましま)
6	土手下	本村の坤 (南西) (どてのした)
7	佐分浦	々 (さぶのうら)
8	烏飼	本村の西 (からすがひ)
9	穴無田	々 (あなむた)
10	鷺場	々 (さぎば)
11	筏場	々 (いかたば)
12	棚田	々 (たなだ)
13	中須	々 (ながず)
14	居屋敷	々 (いやしき)
15	西原	々 (にしはら)
16	東原	本村の乾 (北西) (ひがしはら)
17	北原	々 (きたはら)
18	南水溜	本村の北 (みなみみずたまり)
19	宅地	本村の北 (たくち)
20	西六反	々 (にしろくたん)
21	水溜	々 (みずたまり)
22	六反	本村の良 (北東) (ろくたん)
23	堀割	々 (ほるわり)
24	北境塚	々 (きたさかひづか)
25	境塚	々 (さかひづか)
26	鷺原	々 (うぐいすばら)
27	中原	本村の良 (北東) (なかばら)

(字番号)	(字名)	(位置)
28	出口	本村の良 (北東) (でぐち)
29	上ノ丁	本村の東 (かみのちょう)
30	下ノ丁	々 (しもちょう)
31	野間原	本村の中央 (のまんはら)
32	前塘元	本村の巽 (南東) (まえとものもと)
33	塘下	本村の東 (ともした)
34	上横道上	々 (かみよこみちうえ)
35	上道上	々 (あげみちのうえ)
36	三官屋敷前	本村の巽 (南東) (さんくあんやしきまえ)
37	月輪	々 (つきわ)
38	計路	々 (けろ)
39	井寺鶴	々 (いでらつる)
40	井寺道下	々 (いでらみちした)
41	間島前	本村の南 (ましまんまえ)
42	古屋敷	々 (ふるやしき)
43	杉下	々 (すぎのした)
44	南一口	々 (みなみいちのくち)
45	一番割	々 (いちばんわり)
46	二番割	々 (にばんわり)

(熊本市史 別編 第二卷)

五・三 字名の分類

地名は「言語による地名・地形による地名・災害による地名・宗教による地名・民俗による地名・歴史による地名・開拓による地名・軍事による地名・宗教と民俗の複合による地名」などに分類されるが、秋津地区の地名について「熊本地名研究会の松野国策氏」は次の様に分類されている。
 (1) 類似地名による分類
 (熊本地名研究会 松野國策)

	秋田村	沼山津村
1	鶯原・北原・東原・中原・西原	鶯原・貝原・萩原・佐土原・西原
2	穴無田・佐分浦・野間原	西無田・東無田・小無田
3	水溜・南水溜	水溜
4	宅地・居屋敷・古屋敷・三官屋敷前	天神木
5	計路	計路
6	堀割・一の口・南一の口・出口	堀切・堀口・樋口(火口)・橋口
7	境塚・北境塚	境峠
8	上横道上・上道上・中道下・上道下・井寺道下・井寺鶴	上津代里・中津代里・下津代里・上内・下内・橋本(橋の下)
9	棚田	兵糧田・寺田・長田
10	杉下	杉本(杉の元)桜木
11	間島・間島前	
12	塘下・前塘元・土手の下	上古閑久保・古閑久保・古閑前
13	西六反・六反	花立・北花立
14	中須・一番割・二番割・上丁・下丁	筒井田・筒井久保・竹内・横島・桜木
15	筏場・鶯場・月の輪	大城町・名守・図志分(図師分)・保手本(本手の下)・奥分・戸井手

(2) 形態による分類

	秋田村	沼津村
地形地名 (自然地名)	鶯原・北原・東原・中原・西原・杉下・中須・穴無田 鳥飼・鶯場・佐分浦・水溜・南水溜・計路・野間原・間島	鶯原・佐土原・貝原・萩原・西原・上古閑久保・ 古閑久保・古閑前・花立・北花立・桜木・筒井久保・筒井田 西無田・東無田・小無田・竹の内・杉本・水溜・計路
開拓地名	堀割・一の口・南一の口・出口・一番割・二番割・上ノ丁 下ノ丁・棚田・北境塚・境塚・西六反・六反・碓下 間島前・塘下・井寺鶴・井寺道下・上横道上・上道上 月の輪	堀切・堀の口・火口 保手本・上内・下内 上津代里・中津代里・下津代里 長田・横田・境峠・戸井手 橋本・橋口
社会地名	宅地・居屋敷・古屋敷・三官屋敷前	天神木
宗教地名		兵糧田・寺田・凶志分・名守・大城町・奥分

五・四 呼び名

地名には、「字名」の下に「下名(さげな)・呼び名・門名」がある。
坂や堀の一つ一つに畑一枚にいたるまで呼び名が付けられ、地元の人々に古くから伝わり親しまれている。
しかしこれら「呼び名」も環境の変化等に伴い、いつのまにか忘れられたり消滅してしまうものも少なくない。
秋津地区に残っている呼名には次の様なものがあり、人々の営みぶり等を如実に表している。

(調査・平成五年度郷土史講座生 沼津地区 水上則弘・中無田地区 小田邦秀・西無田地区 矢田 剛)

上沼山津地区	裏門 外村 川端 上ノ寺	(うらもん) (ほかむら) (かわばた) (かみのてら)	・門前 ・中竹 ・新道 ・馬神さん	(門前) (なかたけ) (しんみち) (うまがみさん)	・仕事場 ・標ノ木 ・五百間	(しめのき) (ごひやくけん)	・東小路(ひがししゅうじ) ・やげん堀(やげんぼり)
下沼山津地区	野林山 下ノ寺	(のばしのやま) (しものてら)	・小無田 ・たんたん落し	(こむた)	・中小路 ・屋敷田	(なかしゅうじ)	・西小路 (にししゅうじ)
貝原 洲崎	(きやあばる) (すさき)						
舟場 出屋敷 堂ノ前	(かいしよあと) (ふなば) (でやしき) (どおんまい)						
会所跡	(かいしよあと)						

桜木地区

貝原 (きやあはる) ・野林山 (のばしのやま) ・小無田 (こむた) ・中小路 (なかしゅうじ) ・西小路 (にししゅうじ)
 洲崎 (すさき) (すさき) ・下ノ寺 (しもてら) ・たんたん落し (たんたんらくし) ・屋敷田 (やしきでん)

桜木地区

追分 (おいわけ) ・五郎堀 (ごろうぼり) ・東脇 (ひがしわき) ・宮ノ前 (みやんまえ) ・花立往還 (はなたちわん)

中無田地区

えづ原 (えづばる) ・やんぼし塚 (やんぼしづか) ・くぼ (くぼ) ・中道 (なかみち) ・出口 (でぐち) ・下ノ川入場 (しもんかわいれは) ・新道端 (しんみちばた) ・さわら

西無田地区

神屋敷 (かみやしき) ・新屋敷 (しんやしき) ・水神さん (すいじんさん) ・鬼塚 (おにづか) (御見塚) (ごみづか) ・二方塚 (にほうづか) (にほうづか) かわたて (すいじんぼり) ・江津湖んはた (うらいでんはた)

五・五 地々口考察

天神木 (てんじんぎ)

沼山津の字番号 (字図) 一八番の字名

ここには社も鳥居も無くただ住宅に囲まれた畑の中に、天神塚という直径一・五メートルほどの塚がポツンとあるだけである。もとは大きかったが次第に削られて畑になってしまい、持主は早く削って宅地か畑にしたいが、代々触れば祟ると言われ残していると言う。

『上益城郡誌』に「秋津小学校敷地の字名なり。往古天神丸と言う船入航して此の地の樹に繋ぎしより起こると」とあり、地名を船名に由来させている。

しかし触れば祟るとの言い伝えのなかに古い天神信仰がうかがわれる。

きんぐわん やしきまゑ (松野國策)

二二官日屋敷前

秋田の字番号 三六番の字名

『上益城郡誌』には次のように記されている。

「秋津村計路川の北岸所謂無田中の一小字也。

該地方その他中無田村の屋敷跡何々の屋敷と唱ふ地あるより推すときは此地現今は無田地として到底屋敷とすることは能はざるも、或時は家宅

を構えしことありしを想像し得べし。

往時海底は変じて陸地となるや東部山中の諸川は無田の低部を貫流し従って貝原地方の住民は南進して其の川岸近く進み、加藤公入国して治水事業に熱中され木山川流域を北に、屋形川は南より当地方に引落し、西方江津に築堤し緑川を御船川に合わせたるより俄に氾濫の害を受くるに至り、一朝増水して此地方は忽ち湖観を呈し農民をして辛苦を水泡に帰せしむること往々あり。

殊に其の後川尻大麻塘の築工は惨禍を一層甚しからしむるに至り、全部屋敷を挙げて転居するに至れり。

中無田村の今の地に移りしは天和年間(一六八一〜一六八三)なりと言えは新村・東無田等の部落も相先後して転居し、慶長(一五九六〜一六一四)の頃迄は四五百年此の地に屋敷を有せしもの如し。

秋津村 三官氏塚 中無田村三藤氏の屋敷内にありしを百年前墓地に移す。中国では、「三官」は三男のことか。

三官屋敷は三男が管理していた中国貿易の支社的な屋敷か？

